

518

削除済

大東亞戰爭下の思想戰略草案 (四)

精神科學研究所發行

(非賣品)

特247

806



0056790-000

特247-806

大東亞戰爭下の思想戰略草案

精神科學研究所

4

昭和17

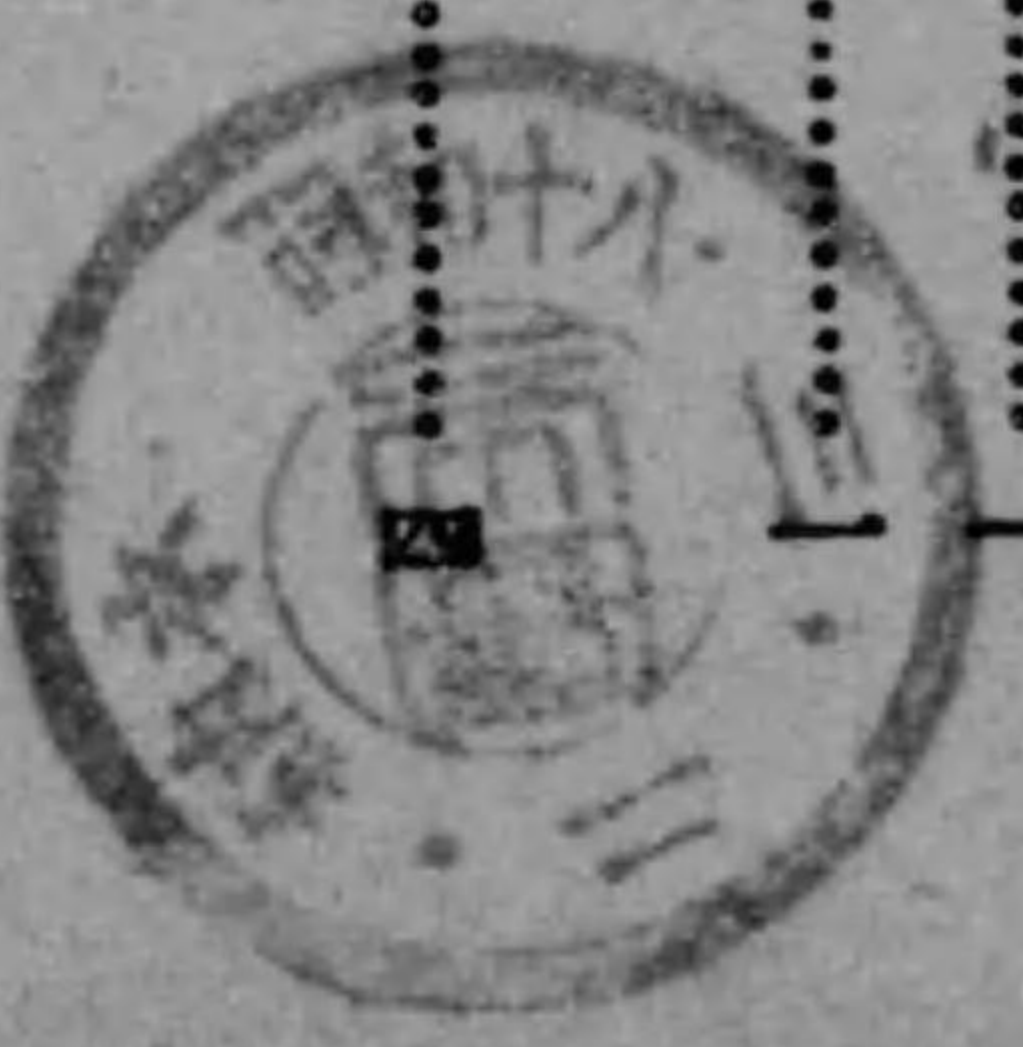
AJD

特247  
806

# 目次

一	序 説	
二	ソ聯並にコミンテルンの世界革命戦略 (以上第一分冊)	
三	日本に於ける共産主義者の謀略 (以上第二分冊)	
四	共産主義と英米イデオロギ― (以上第三分冊)	
五	帝國思想戰略草案	一
	一 は し が き	一
二	國體明徴	一
	手段にあらず―國體防護の力源―國體明徴の易行道	一
三	直接當面の戰略目標としての米英思想	一
	米英思想を精確に認識せよ―資本主義とは何ぞ―輕卒なる資本主義攻撃	一
	―共産主義批判を同時に必要とす	一
四	根本究極の戰略目標としての共産主義	一
	皇道を裝ふ共産主義―國家社會主義―大東亞の共産主義―世界の趨向	六
	と共産主義	六
五	獨伊全體主義に對する態度	二
	提携と模倣―同盟の意義―親善と指導	二
六	結 語	二

【附】週報「思想戰讀本について」(以下第五分冊)



## 五 帝國思想戰略草案

### 一 は し が き

以下に述べんとするところは、吾人の結論として世に問ふものではあるが、飽くまでも試案に止まるものであつて、廣くこの種の問題に關心を寄せらるゝ人士の叱正によつて、更にこれが完成を將來に期待するものである。又本論は、思想戰の末梢的・技術的・戰術的問題よりは、むしろその基礎たるべき根本的態度と、それと不可分に考へられる思想戰略の根本大綱を提示せんとする次第である。

### 二 國 體 明 徵

#### 手段にあらず

今日精神運動や思想問題を論ずるものが、異口同音に國體明徵を問題とする事實は、國體明徵を外にしては、思想戰略を論ずることの不可能なることを示すものである。し

かしながら國民各自が皇國民たるの自覺に徹することは思想戰略の一項目として行はるべきことではなく、むしろ思想戰略を樹立し遂行する前提であることを明確に認識せねばならぬ。従來行はれ來つた國體明徴運動は、ともすれば外來諸思想に對抗して、これを批判克服排除するための政策として強調せらるゝ傾向が多分に存し、やゝもすれば單なる手段としてのみ遂行せらるゝ嫌があつた。(この傾向は今日、一方では國民の創意と責任とを伴ふ潑刺たる活動が鈍麻しがちな經濟政策が採用されつゝ、他方において精神力・大和魂が強調せらるゝことに看取される。精神が政策の單なる補強策として取扱はれてゐるのである。)國體明徴はあくまでも國民に確固たる人生觀・世界觀を把握せしめ、忠君愛國の至誠と熱情とを充溢せしむべきである。このことは單なる思想戰の戰略の一部分としてではなく、思想戰そのものを貫遂せしむる根本前提として、意味をもつものであつて、國家の永久生命と共に存續する悠久の道、根本の道である。

#### 國體防護の力源

明御神にまします 天皇に歸一しまつる信によつてはじめて、あらゆる外來諸思想を批判克服し攝取同化することが可能なのである。國體明徴を手段的に考ふる傾向がある

ときは、外來諸思想の侵襲、反國體思想の破壊作用が弱まつた時には、國體明徴を忽緒に付するやうになるのである。かくの如きものは國體明徴を相對的意義において、外來諸思想と並列的・對抗的にのみ考ふる誤謬に起因するのである。

國體明徴は、思想戰略の一部分としてではなく、思想戰略を樹立し、思想戰を遂行する根本條件であり、國體防護思想戰の力源である。

#### 國體明徴の易行道

然らば國體明徴に徹する道は如何。萬民が踐み行ひうべき易行道は如何に。吾人の仰信する所を以て答ふれば、歴代の 天皇の御詔勅御製を拜誦奉戴することである。御詔勅は惟神の大道を「時に隨」ひ、又「世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ」紹述せさせ給へるものであるから、日本精神の根本的絕對的本質と歴史的相對的性格とを、同時に拜することが出来るのである。御製は「思ふこと思ふがまゝに」「思ふことありのまゝに」「詠みいでさせ給へるものであつて、大御心をさながらに拜せしめらるゝのである。大御心に歸一しまつり、神ながらの「誠の心」により、教育勅語、軍人勅諭をはじめとし、御詔勅御製の御教へを循行するところに「行ひ易く守り易き」臣民の易行道が

存するのである。それは大御言葉の示し給ふ「天地の公道人倫の常經」である。

### 三 直接當面の戦略目標としての英米思想

英米思想を精確に認識せよ

昨年十二月八日畏くも宣戰の大詔を拜して一億國民は總力を擧げて交戰中である。陸海空に輝かしい戰果を收めつゝある皇軍に相應じて、思想戦も行はねばならない。英米思想を徹底的に批判しその缺陷を明確に究明し、理念思想上に於て敵を克服することは、戰勝を確保する所以であつて思想戦本來の使命である。英米と交戰中の現在、思想戦の直接當面の目標が英米思想なること當然である。

英米思想を克服せんがためには先づ英米思想を精確に把握せねばならない。吾人は既にこれを(三)において簡単に試みたのである。今日新聞・雜誌・ラヂオに英米思想排撃を叫ぶものが多いが、たゞ何々主義・何々思想とのみいつて攻撃する實狀であつて、その概念内容を明確にせざるものは、敵に勝つ所以ではない。

資本主義とは何ぞ

たとへば今日「英米イデオロギー・英米秩序・英米資本主義を排撃せよ」と無反省に叫ぶものがあるが、その内容は極めて曖昧である。特にこの資本主義といふ言葉は、社會主義者が現在の社會機構を非難攻撃し、それとの對照において、社會主義を理想化せんために、使用しはじめた用語だといはれてゐるが、現在大體次の如き三様の意味において用ひられてゐる様である。第一は萬人が共通にもつ利己的性向を漠然と指すものとして、第二は營利(利潤)獲得を原動力として營まれる社會機構を指すものとして、第三は稍々内容がはつきりして來るが、民有民營の株式會社の企業が支配的勢力をもつ經濟機構を意味するものとしてゝある。

輕卒なる資本主義攻撃

この米英資本主義排撃がその第一を意味するものとするれば、その誤りは明かであらう。東西古今を通じて萬人がもつ利己的性向を、米英イデオロギー乃至米英資本主義など、名付けても、それによつて解決することが出來ぬのみか、却つて眞に排撃すべき米英思想を逸することになるのである。第二に營利(利潤)追求を意味するものとするれば、それは又甚しい誤りである。何故ならば營利には正當な營利と不正な營利が存する

し、又正當な營利もその運用法の如何によつては非難せらるべきものがあるのである。かゝることを一切問題にすることなく營利そのものを全面的に否定し排撃するのはマルクス主義者が、利潤（營利）を剩餘價値の搾取なりといつて攻撃するものより外にはないのである。米英に對する敵愾心をこのやうに亂用することは、却つて眞に米英に對する敵愾心を昂揚せしむる所以ではない。利潤（營利）の全面的否定は第三に通ずる。即ち米英資本主義の名の下に民有民營の企業を根幹とする經濟社會機構を意味せしめて否定するのは、明かに全産業或は主要産業の國營・國策會社化の主張であり、私有財産制度に對する高度の制限、更に進んでは否認を意味するものとして、國家社會主義より社會主義・共產主義に至る道を拓くものである。

#### 共產主義批判を同時に必要とす

かくの如く米英イデオロギーの内容を明確にせずしてこれを排斥して資本主義の打倒を主張する如きは、或は萬人の具有する人間性の弱點を漠然と攻撃することとなつて了つたり、或は國內的並に國際的に、現秩序中の護持長養すべきものをも階級的見地より一舉に破壊せんと企圖する共產主義者の思ふ壺にはまつて了ふ危險が多分に存するのである。

その上、社會主義者は現代を資本主義社會なりと規定して、米英兩國をもつて世界資本主義の祖國となし、現代のあらゆる缺陷を資本主義の弊害なりと考へてゐるのであるから、自ら、完全な自由主義、徹底せる民主主義を主張する共產主義は、階級的見地から資本主義を批判し攻撃するのである。例へば時間給制賃銀又は出來高拂制賃銀は労働を商品化するものといつて人道的立場より反對し月給制を主張する場合にも、出來高拂、或は時間給制賃銀は労働強化即ち搾取強化の手段として反對する共產主義見地を一應秘めておいて、次第にそこに誘導せんと試みるものが存するのである。或は營利追求を非難するもの、中には、利潤そのものを搾取として反對する階級的立場に立つものもある。私利・營利追求を非難し生産の公共性、企業の社會化を主張しつゝ「共產主義的立場から」資本の所有と經營の分離」を實行し、私有財産制否認への第一段階となさんとするものも存する有様である。

米英イデオロギー批判はそれと關聯して共產主義批判がなされないならば米英イデオロギー批判としても不充分であるばかりでなく共產主義に道を拓く結果となつて了ふこ

とに注意せねばならない。

#### 四 根本究極の戦略目標としての共産主義

##### 皇道を装ふ共産主義

共産主義は我が思想戦の根本的な且つ終極的な目標である。これを疎外しては英米イデオロギーの批判排撃を行つても、畫龍點睛を缺くのである。このことについては前節に既に述べた通りである。

我國が肇國の大理想を宇内に宣布するに當り、あくまでも對立するものは共産主義である。共産主義は英米イデオロギーと異なり、全世界の徹底的な革命をプログラムとし、コミンテルンは我が國體の破壊をその政綱に掲げ、その活動は極めて組織的計画的である。そしてその活動は甚だ巧妙にして或る時は英米イデオロギーの假面を被つて、政治・社會・經濟上の自由平等を主張し、又或る時は全體主義的な扮装の下に自由主義民主主義を排撃さへしてゐる。このことは既にのべた所である。最近においては民主主義・自由主義を排撃しつつ、臣民の側より自ら翼賛の道をひろめんと意圖するものをも

生じたのであるが、これも民主主義に外ならぬ。翼賛の名を以てして一國一黨的政黨を組織し強度の民主主義を主張したものが幸にして國體・憲法の威力の前に是正せられたことは衆知のことであらう。或は時流に巧に便乗して忠君愛國の言辭を用ひ、皇道に挺身する如き扮装を凝らして、その内容としては國家社會主義的な政策を掲げるものも存するのである。しかしながらその場合、彼等が何らかの點で、常に社會主義への道を拓き共産主義への準備たるの意味を含めてゐることには變りはない。

##### 國家社會主義

レーニンの記す所を見よう。

「戦争は獨占資本主義の國家的獨占資本主義への轉化を異常に促進し、これによりて人類を社會主義に向つて異常に接近せしめた。これは實に歴史の辯證法である。……國家的獨占資本主義が社會主義の完全な物的準備であり、社會主義への入口であり、歴史の楷梯に於て、この國家的獨占資本主義と社會主義と呼ばれる階段の間には如何なる中間的階段も存在しないからである。」

今日學者官吏の中に公然と國家社會主義を主張するものを見るのである。國營・國策會

社營團等で眞に必要已むをえずして誕生したもの、存することを認めぬものはないであらう。しかしながら重要産業乃至は全産業の永久的な國營・營團化或は國家管理を主張するものに對しては、その思想を充分に警戒せねばならない。ことに戦時の必要に藉口して統制強化を主張しておきながら、戦後絶対に後へ戻らぬといふに至つてはそこに潜むイデオロギーが暴露せられるのである。戦後において元に戻らぬ部分の存することは自明であるが、それにも拘らず復元せらるべき部分の存することも亦當然である。戦時經濟が平時經濟に復するのは極めて當然である。國家社會主義的政策を掲ぐる諸團體に對しても深き注意を要するものがあるのである。特に一方において忠君愛國的用語を使用してゐればある程、その國家社會主義的政策が不知不識の中にひろく受け入れられ易いのであるから一層警戒を要するのである。赤い毒々しい毒茸はまだ危険が少いが、食用茸に似た毒茸は最も危険が多いのと同様である。

#### 大東亞の共產主義

大正年間より今に至る二十餘年間に亘つて滲透せる共產主義の病根が、滿洲事變・支那事變・大東亞戰爭を通ずる國民の自覺によつて深く反省せしめられたと同時に、一方

當局の絶え間なき峻嚴な取締がなされたにしても、さうたやすく絶滅するものとは考へられない。むしろ戦争の長期化は徐々に共產主義者に好箇の條件を醸成せしめてさへるのである。従つて今日「我國には共產主義は既に問題ではない。英米イデオロギーの



## 五 獨伊全體主義に對する態度

### 提携と模倣

最後にナチス・フアツシヨの思想に對して一言述べねばならぬ。我國は今日ドイツ及

びイタリーと防共協定と軍事同盟とを締結し、相提携して英米兩國と激戦中である。戦は日獨伊を樞軸とする諸國の壓倒的優勢裡に推移しつゝあるが、益々提携を鞏固にして最後の勝利を獲得すべく邁進せねばならぬことは極めて明かである。

しかしこゝに注意せねばならぬことは、獨伊と親善提携すべき秋に際して、獨伊親善よりしらすゝのうちに獨伊崇拜の卑屈的態度をとつて、獨伊を模倣して足れりとするものが一部に存することである。或は又、獨伊がその民主々義的原則に立つ議會を無力化し或は無視して一國一黨の獨裁政治を行つてゐるのを目して、我國の議會が既に説明したるが如く、英米獨伊等のそれとは全く本質を異にすることを知らず、ひとしく民主々義的な存在と誤り考へ、獨伊を模倣して帝國議會を無力化せんとしたり、或は軍政兩略の一致の必要を強調し、根本において最も綜合統一的な我が政治機構を誤解して、分立主義を排して綜合主義を採用するといふ「名目」の下に、獨裁制を主張するものが存することである。この誤りなることは既に述べたところである。

### 同盟の意義

獨伊は自由主義民主々義の弊害を批判克服し、その志向の我が國體を憧憬し歸向せん

一四  
としてゐることが明かに認められるのであるが、民族精神を體現し民族を指導するフエーラーを人民の中より出さねばならぬところに、遂に民主々義を脱却することが出来ぬ永遠の悲哀が存するのである。

吾人は相提携する獨伊の思想を明確に理解し、その長所短所をよく知悉し、陛下の御稜威國體の尊嚴を冷く知らしむる如く努力すべきであつて、盲目的に崇拜し模倣してゐてはならないのである。

現在獨伊は我國と英米を共同の敵として戦つてゐる。この同盟の意義は勿論速かに勝利を獲得することにあるが、それと共にこの同盟關係を通じて我が國體惟神の道を理解せしむべきである。かくして八紘爲宇の理想も近く親しきより具現できるのである。

#### 親善と指導

嘗て日英同盟が存在し米國とも親善關係にあつた當時、英米との親善は英米に對する崇拜となり、更に英米恐怖にまでなつた事實が、我が國民の一部に存在し、英米よりは勿論東洋諸民族よりも輕侮せられたことがあつたが、かゝる過誤を再びくりかへしてはならない。これを畢竟するに、獨伊の思想に對しても精確なる認識をもち正當なる批判

を有することが肝要なのである。獨伊をしてよく惟神道に歸一せしめうるか、はた獨伊盲信模倣となるかも、一つに國體の明徴に徹し惟神道に立脚して獨伊思想を批判しうるか否かに係はるのである。帝國がイニシアチーブをとつて締結せられた防共協定が存在する深奥なる意義をこゝに強調せねばならない。

#### 六 結 語

以上述べ來つたところを要約すれば左の如くである。第一に國體明徴が根本であつて、これは國民の人生觀・世界觀の問題として思想戰遂行の力源として行はるべく、思想戰略の一部分として行はるべきではないこと。第二には、英米と開戦中の今日、英米思想を究明批判克服することは、當面直接の問題として最も緊急不可缺の問題であるが、それと同時に共產主義を精確に認識することが必要である。然らずんば、英米思想を克服することは愚か共產主義者の巧妙な戰術に翻弄される恐れがあること。第三には共產主義の本質、その運動の功妙なる戰術に鑑みても、我が思想戰の根本戰略目標が共產主義擊滅に存すること、共產主義の批判を外にしては英米思想の批判も徹底を缺くこ

と。即ち英米思想は表面に出現してゐる戦略目標ではあるが、眞の根本目標は現在のところ直接表面には現はれてゐないとしても共産主義であること。第四には、獨伊は我國の同盟國でありいよ／＼提携を固くして最後の勝利に邁進せねばならないのであつて、獨伊親善はいくら強調しても足りないのであるが、獨伊崇拜となり盲目的な獨伊模倣に墮せず、むしろ獨伊をも皇道により指導するやうに注意すべきこと、である。

要するに帝國がその世界經綸の窮極目標である八紘を宇と爲す理想を實現するには、自ら國體明徴に徹し、外國諸思想の長短を精確に知悉することが肝要である。そこに自づと思想戰略が樹立せられるのである。

吾々はこゝに試みに草案を提示したが、廣く江湖の叱正をまつてこれが是正完璧を期すものなることを重ねて附言する次第である。

昭和十七年十二月二十四日印刷  
昭和十七年十二月二十八日發行

【非賣品】

發行者 東京市本所區石原町一ノ一二 丸山行雄

印刷者 東京市芝區西久保巴町三〇 近藤喜七

印刷所 東京市芝區西久保巴町三〇 順弘社 近藤印刷所

東京市麹町區平河町二丁目二番地

精神科學研究所

電話九段(33)四四六九番

發行所

東東 1.217

433
98

